

# Salon

Vol.113 2018年3月 春号



ホール3F 壁画 ポール・ギアマン作「ヴァイオリニスト」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — プラジャーク・クワルテット
- 03 Phoenix Presents — 福田進一&クピングスキー・ギターデュオ  
ジョイントリサイタル
- 05 Pick Up
- 06 Phoenix Spot — ホール音楽アドバイザーに聞く  
2018年度おすすめ“presents”公演
- 07 Essay de say — アリシア・デ・ラローチャの想い出 濱田滋郎

# 40年以上続く、伝統ある弦楽四重奏団 プラジャーク・クワルテット



1972年に結成され、世界中で活躍しているチェコの四重奏団「プラジャーク・クワルテット」は、日本でも大人気だ。今年は、6月のティータイムコンサートで、オール・ドヴォルザーク・プログラム公演が予定されている。チェコという国名が連想させるのか、プラジャーク・クワルテットは、土の香りのする安定感を武器に、エネルギーほとばしる演奏で、聴衆を音楽の渦へとひっぱりこむ。彼らに聞きたいことはたくさんあったが、「チェコ」にまつわることを中心に質問した。メールでの返答は、ことばの選択が丁寧で、しかもそのひとつひとつにチャーミングさが添えられていて、これでインタビューが終わってしまうのが本当に残念だった。続きは演奏会の音楽で、ということなのだと聞かせつつ。

(取材・文:小石かつら/関西学院大学准教授)

## プラジャーク・クワルテット (Pražák Quartet / 弦楽四重奏団)

国際的に活躍するチェコの弦楽四重奏団のひとつであるプラジャーク・クワルテット。1974年プラハ音楽院室内楽コンクール第1位。1978年エヴィアン弦楽四重奏コンクール第1位。同時にラジオ・フランスの特別賞も獲得。他にもチェコ国内の様々なコンクールで受賞。以後30年以上にわたり世界中の舞台で活躍を続けている。現在はプラガ・デジタルズ(販売はハルモニア・ムンディ)と専属契約を結んでおり、同レーベルからこれまでに50枚を超えるCDがリリースされている。

## 「プラジャーク・クワルテットwith山崎智子(ヴィオラ)～オール・ドヴォルザーク・プログラム～」

は、2018年6月1日(金)午後2時開演。茶菓付で、入場料4,500円(指定席)、友の会4,050円。学生1,500円(限定数)。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い)。チケットのお求め、お問合せは同センター(電話06-6363-7999 土・日・祝を除く平日10時～17時)。

### [プログラム]

ドヴォルザーク:二つのヴァイオリンとヴィオラのための「ミニチュール」作品75a

弦楽四重奏曲 第12番 へ長調「アメリカ」作品96

弦楽五重奏曲 変ホ長調 作品97 (予定)

# チェコの作品が持つ音楽世界を具現化する

**プラジャーク・クワルテットの結成のきっかけは、  
プラハ音楽院だと聞きました。**

私たちはプラハ音楽院で出会いました。1970年代はじめに、プラハ音楽院で学んでいたのです。当時の私たちの先生はそれぞれ、スマタナ弦楽四重奏団、プラハ弦楽四重奏団、ヴラフ四重奏団、スク・トリオといった、大変有名なアンサンブルのメンバーでした。そんな彼らが、私たちに最初の刺激を与えてくれたのです。これは大きな幸運でした。私たちは最高の指導者とともに、室内楽を始めたのです。

**1970年代、80年代のプラハ音楽院は、どんな雰囲気だったのでしょうか。私の想像では、さまざまな国の人があつたと思うのですが…。**

当時のプラハ音楽院は、政治システムの影響で暗い雰囲気でした。幸いなことに、最高レヴェルの教授陣が音楽院に留まつておられたので、私たちはとびきりすばらしい教育を受けることができました。外国からの留学生は、西側諸国からは1人もいませんでした。シリア、キューバ、カンボジアといった醉狂な共産主義政権だった国々から、ほんの数名の若い男子学生が来ていただけです。女子留学生はいませんでした。私たちが学生だった頃の一番有名な学生は、カンボジアのシアヌーク王子で、彼は現在でも流暢なチェコ語を話します。

**プラジャーク・クワルテットが1972年に結成されてから45年。メンバーの変遷に関して、新しい方を迎える時に大切にしていることは何ですか？**

クワルテットというのは、常に最高のものが要求される仕事なので、メンバーが交替するのは、ごく普通のことです。ただ、私たちがメンバーを交替せざるをえなかつたのは、健康上の理由だけでした。チェコでは、30歳から55歳をエネルギーくな世代だと考えるのですが、この25年間、プラジャーク・クワルテットは2000回以上のコンサートをし、50枚ものCDを出してきました。だからこそ、メンバー交替の際には、アンサンブルの性格を保持することが、何よりも一番重要だと考えています。

**第一ヴァイオリンのヤナ・ヴォナシュコーヴァと「劇的な出会いがあった」と日本で紹介されています。具体的に、どのような出会いだったのですか？**

この質問、ありがとうございます！ヴォナシュコーヴァは、第一ヴァイオリン奏者のヴァーツラフ・レメシュが引退するときから、私たちのフォーカスに

ありました。しかし彼女はその時、こどもが小さくて家にいなければならなかつたのです。彼女の育休明けを待つ「待機の期間」は大変でしたが、いやや、報われました。彼女の音楽性は、まさに先ほどの質問で回答した、メンバー交替の際に最も重要だと考えている、私たちのアンサンブルに、ぴったりと一致するものだったのです。彼女が提供してくれることは何をかも、私たちが第一ヴァイオリン奏者に期待していることそのものでした。技術的な卓越性はもちろんのこと、音楽的な思想を背景とした幅広いスケール、溜め息がもれるほど色彩豊かな音の出し方、様式に対する深い洞察、そして、とても強い説得力を彼女は持っているのです。そんなわけで3年前から、私たちは「プラハの古い親友」になりました。

**プラジャーク・クワルテットの幅広いレパートリーの中で、ハイドン、モーツアルト、ベートーヴェンの作品は、どのような位置づけですか？**

ハイドン、モーツアルト、ベートーヴェンの作品は、私たちのレパートリーの柱となるものです。というのも、弦楽四重奏の勉強は、彼らの作品で始めなければならないからです。こういった作品で、まず伝統の基本を学ぶのです。さらに、チェコの弦楽四重奏が引き継いできた流派もまた無視することはできません。歴史的にみれば、三人の作曲家は私たちと同じ国にいたのですから。ハイドンは弦楽四重奏というジャンルをつくりましたが、彼の音楽には、ハンガリー、ボヘミア、オーストリアなどの民族音楽やリズムが散見されます。モーツアルトはなんといつてもオペラの作曲家で、独自のすばらしいスタイルを確立しました。ですから歌を軸に解釈されるべきです。これに対してベートーヴェンは大変近代的で、17曲の弦楽四重奏曲で室内楽の解釈をいちじるしく発展させ、初期ロマン派へと導いたのです。

**その一方で新しい作品、とりわけ現代曲を演奏することについて、どのように考えていますか？**

室内楽のグループは、自分たちのレパートリーの一部として現代音楽を組み込んでおくべきだと思います。そうでないと、音楽というものは発展していません。歴史の流れというのは、いつもそうです。私たちは毎年、新しい作品を舞台にあげることで前にすすんでいきます。

**チェコ出身ということで、「チェコ」というアイデンティティとは、どう向き合っておられますか？チェコの作曲家の作品を多数演奏されていますが、他の作品とは違いますか？**

**の作品とは違いますか？**

チェコの音楽は、私たちのレパートリーの重要な部分を占めています。私たちは、チェコの室内楽作品を、古典派の初期のものから現代のものまで、すべて演奏しています。これらは、私たちのアイデンティティを紹介してくれる作品群です。別の言い方をすれば、私たちが、チェコの作品のもう音楽世界を具現化し、聴衆に提示しなければならないのだと思っています。これらの傑作の中に、チェコの民族音楽の響きを感じます。このようなところに、私たちの由来の証があるのかもしれません。しかし、だからといって、私たちのチェコの音楽を、ブームスやシューマンとは全く違うように演奏するというわけではありません。私たちはいつも、私たち自身が中欧にいることを自覚しています。外国のアンサンブルがチェコの音楽を演奏する際、ヤーネックやスマタナの独特的音楽的なイディオムに難しさを感じるそうです。このような時、私たちの「アイデンティティ」は、母語に抱く土着の感性とでもいうような仕方で、私たちを支えてくれます。色々言いましたが、チェコの作品を解き明かし、それを伝えていくことが、私たちの課題だと思っています。

**日本で演奏するとき、どんなことを感じますか？また、プログラムを組む際に日本を意識することはありますか？**

日本の美しいホール、そして観客のみなさんの集中力に、毎回驚いています。もちろん日本に行くことを、いつも大変楽しみにしています。というのも、日本人はお客様をもてなすのが非常にうまく、移動や演奏会のオーガナイズも完璧ですから。また日本の聴衆はチェコの音楽が大好きで、例えばスマタナのチェコ愛国的な音楽を、ヨーロッパの国々の人たちよりも良く理解しているように思います。演奏会のプログラムを決める時には、日本のエージェンシーと相談しながら考えるのですが、私たちはいつも、日本のみなさんに新しい興味が湧くような作品を提示するよう心がけています。

**最後に、日本について感じられたことを…。**

初めて日本ツアーオーになった1986年から、ちょうど20回来ています。札幌から鹿児島まで、だいたいではありますが日本中どこにでも行きました。食べ物は何でもいただきますし、何でも大好きです。プラハにある日本食レストランにも行きます。ともあれ、私たちにとって日本にいることそれ自体がすばらしいことです。



3月2日(金)  
10:00 受付開始  
ザ・フェニックスホール  
友の会優先予約

3月5日(月)  
10:00 受付開始  
イーフェニックス  
E-PHX優先予約

3月6日(火)  
10:00  
一般発売

インターネット予約、ご来店による  
お申込みは3月7日(水)10:00から!

■Kansai Soloists & Ensembles 22

2018年8月26日(日)

16:00開演 指定席  
一般¥4,000(友の会価格¥3,600)  
学生¥1,000(限定数)

出演 福田進一  
クピンスキー・ギターデュオ  
(以上ギター)

クラシックギターの可能性を拡大する、世界的ヴィルトゥオーソたちの饗宴  
Osaka Guitar Summer 2018 <福田進一と仲間たち vol.9>  
福田進一&クピンスキー・ギターデュオ  
ジョイントリサイタル

曲目 ロッシーニ(ジュリアーニ編/クピンスキー改編):「泥棒かささぎ」序曲  
ガーシュウィン(クピンスキー編):ラブソディ・イン・ブルー  
ジュリアーニ:ソナタ ハ長調 作品15  
テデスコ:ソナタ「ポッケリーニ讃」作品77 ほか(予定)  
\*プログラムは変更の可能性があります



毎年“夏”恒例となりましたクラシックギターの祭典、今年も大幅にパワーアップして開催します。中心となるのは大阪出身で世界のマエストロ、福田進一さん。そして初来日となるポーランド出身のクピンスキー・ギターデュオ。世界で活躍する彼らのレパートリーは非常にユニークで、クラシックの名曲を独自のアレンジで演奏します。その響きはとても新鮮で、クラシックギターファン以外の方にも是非お勧めします。また、昨年大好評だったギターアンサンブルワークショップ、公開マスタークラスも同時開催。ますます盛り上がるギターサマーにご期待ください。



©Takanori Ishii

福田進一  
(ふくだ・しんいち／ギター)

大阪生まれ。パリ・エコールノルマル音楽院を首席で卒業。1981年パリ国際ギターコンクール優勝。以後35年、ソロ・リサイタル、主要オーケストラとの協演、ウルグアイのギタリスト エドワルド・フェルナンデスとのデュオをはじめとする超一流ソリストとの共演など、国際的な演奏活動を続けている。平成19年度外務大臣表彰。平成23年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。上海音楽院、大阪音楽大学、広島エリザベト音楽大学、昭和音楽大学客員教授。



クピンスキー・ギターデュオ  
(The Kupiński Guitar Duo／ギター)  
エヴァ・ヤチンスカ  
(Ewa Jabłczynska)  
ダリウス・クピンスキ  
(Dariusz Kupinski)

ポーランド出身のギターデュオ。エヴァは、カロル・シマノフスキ音楽大学、ダリウスはミュンヘン音楽大学を卒業。ソロ、デュオで国際大会において入賞歴多数。ヨーロッパ各国、米国、メキシコ、中国など世界各国で演奏活動を行う。2011年、デビューCD「SPANISH MUSIC」をリリース。最新CDは(2016年)、ショパン、ロッシーニ、ピアソラ、ガーシュウィンなどを独自のアレンジで録音。

フェスティバル コンサート(修了コンサート)

2018年8月26日(日) 13:00開演 自由席 一般¥1,500

※学生券、友の会の割引はありません  
※「福田進一&クピンスキー・ギターデュオ ジョイントリサイタル」のチケットをご購入の方は無料。(要事前申込み。定員200名になり次第、締め切らせていただきます。)

出演 公開マスタークラス受講生  
アンサンブルワークショップ受講生  
岩崎慎一、益田展行、猪居謙(以上ギター)



## 福田進一&クピングスキー・ギターデュオによる ギター公開マスタークラス受講生募集



Osaka Guitar Summerでは、日本を代表する国際的ギタリスト・福田進一さんによる若きギタリストを育成するギター公開マスタークラスを毎年行っています。2018年度は、ソロ部門に加えデュオ部門(講師:クピングスキー・ギターデュオ)を開催。気概あるギタリストからのご応募お待ちしております。

■講師 福田進一、クピングスキー・ギターデュオ(以上、ギター)

■開催日程 2018年8月25日(土)

\*公開マスタークラス受講生の方には、ギターサマー2018 フェスティバルコンサート(8/26)にもご出演いただきます。

■会場 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

■募集部門 ソロ部門、デュオ部門(あわせて3組)

■応募資格 プロの演奏家を志望する、年齢30歳まで(2018年8月31日時点)のギタリスト。専門的教育を受け、また、コンクールに上位入賞するなど外部組織による高い評価を受けている者。

■選考方法 応募資料等により、福田進一氏が選考します。

■参加費 公開マスタークラスの受講料は無料。ただし、参加に伴う交通費や宿泊費、楽譜などは自己負担とします。

■応募締め切り 2018年6月8日(金)

\*詳細は、募集要項、当ホールホームページでご確認ください。

## ギターインサンブル ワークショップ受講生募集



昨年大好評の、ギターインサンブルワークショップを今年も開催いたします。今年演奏いただくのは、CD『マチネの終わりに』で「幸福の硬貨」を作曲された林そよかさんの新曲です。その世界初演をワークショップ参加の皆さんに演奏いただきます。滅多にない機会です。ご応募お待ちしております。

■講師 岩崎慎一、益田展行、猪居謙(以上、ギター)

■開催日程

2018年6月3日(日)、13日(水)、7月1日(日)、18日(水)、  
8月1日(水)、24日(金)、25日(土)、26日(日) 全8回

\*ギターインサンブルワークショップ受講生の方には、ギターサマー2018 フェスティバルコンサートにもご出演いただきます。

■会場 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール ほか

■募集部門 20名程度

■応募資格 クラシックギター経験者で楽譜が読める方

■選考方法 応募者多数の場合、抽選いたします。

■参加費 「福田進一&クピングスキー・ギターデュオ ジョイントリサイタル」のチケット、2枚以上のご購入をお願い致します(学生券不可)。また、参加に伴う交通費や宿泊費などは自己負担とします。

■応募締め切り 2018年4月27日(金)必着

\*詳細は、募集要項、当ホールホームページでご確認ください。

### ■お問い合わせ・募集要項の請求

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール 「大阪ギターサマー」事務局  
TEL 06-6363-0211 FAX 06-6363-1124 E-mail:concert@phoenixhall.jp URL: <http://phoenixhall.jp>

## ホール主催・共催・協賛公演チケットのお申込み方法

### 06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

#### ■ザ・フェニックスホール友の会優先予約

- ・ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
- ・主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
- ・友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時に電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。

#### ■E-PHX(イー・フェニックス)優先予約

- ・E-PHX(イー・フェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
- ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
- ・事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話でのご登録はできません。

#### ■一般発売

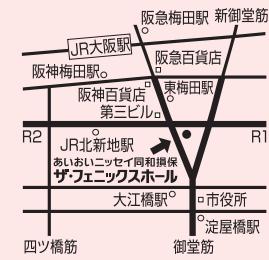
- ・一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
- ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

### <http://phoenixhall.jp/>

チケットセンターのページからお申込みください

### 直接のご来店による お申込み

・ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物5階、エレベーターを降りて廊下右手です。



### チケットお申込み後のお受け渡し方法

下記①または②のどちらかとなります。

- お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。  
営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00です。

- 先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいたから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351

加入者名 ザ・フェニックスホール

## Pick Up ピックアップ

■フェニックス・エヴォリューション・シリーズ85

主催 Pinocca

2018年8月8日(水)

### Barrio Shino 日本初公演“アルゼンチン・タンゴに魅せられて…”

19:00開演 自由席

一般前売¥4,000(友の会価格¥3,600)

一般当日¥4,500(友の会価格¥4,050)

※友の会割引は1会員2枚まで。

出演 大長志野(ピアノ)、ルイス・アルベルト・シモ(ヴァイオリン)、

ブルーノ・ルドゥエニヤ(バンドネオン)、パトリシオ・コテラ(コントラバス)

曲目 ピアソラ:憂鬱なブエノス・アイレス

エクトル・スタンポーニ:亞麻の花

フリアン・プラサ:ダンサリン

ドミンゴ・フェデリコ:緑の薬草

アグスティン・バルディ:ティエリータ

ほか

「アルゼンチン・タンゴには不思議な力があってねえ」とある人が呟いた。後にその言葉の意味を理解した私、気がつけばブエノスアイレスに渡っていました。アルゼンチン民族音楽の一つ「タンゴ」。首都ブエノスアイレスが発祥地です。その音楽に感じる魅力はそれぞれで、ダンス、歌、曲、リズム、各タンゴ楽団のスタイル、歴史—タンゴの「リズムと音楽」に魅せられブエノスアイレスに渡った私は、そこでの生活で、人々が愛する文化、日常を肌に感じ、またその地に根を張り生き続けるタンゴ、新たに生まれるタンゴとの出会いにより、その魅力はさらに膨らむ事となり、「言葉と血」を越えて表現したい、と強く思いました。今回の公演では「音楽とアレンジ」という点に注目していきます。タンゴは、各楽団・演奏者によって曲のアレンジや、キャラクターががらりと変わるのが特徴の一つでもあります。このコンサートでのプログラムのほとんどが、自身のオリジナルアレンジ。楽器編成を変えて、タンゴの魅力、繊細さ、情熱を、伝統的なリズムへの尊重を欠かさず、新しいアレンジで、表現していきます。タンゴが引き寄せた4人の、地図にはないBarrio(バリオ:町・下町)が、日本に到着します!



Barrio Shino(バリオ・シノ/タンゴ四重奏団) Barrio(バリオ) という名前は、日本語で下町・地区というような意味があります。ブエノスアイレスの町は、いくつかのバリオで分ける事ができ「あなたはどのバリオに住んでいる?」という質問はよくあります。Barrio Shinoという名前は、実はアルゼンチン人にとっては言葉遊びのような感覚があります。ブエノスアイレスに中華街“Barrio Chino”(バリオ・チノ)があり、ピアニスト志野は“チノ”に似ていますが日本人。この点でよく人々の混乱を生むのですが、これが面白い。ブエノスアイレスで様々な企画が生まれては消え、また生まれては分裂し…という現場を目の当たりにし、自分でも企画をしなければやっていけないと感じた大長志野が2013年から書き溜めたアレンジを携え、2016年に正式に結成されたこの4重奏。ライブ活動を重ね、2017年のブエノスアイレス市タンゴフェスティバルにも出演。人々が集う、地図にはない“バリオ”になれる事を願って…

#### あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内

ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。  
当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

#### 協賛公演 ヴィオラスペース2018大阪 第4回東京国際ヴィオラコンクール入賞記念ガラ・コンサート

発売中

2018年6月5日(火) 19:00開演 指定席 一般前売・当日¥5,000(友の会価格¥4,500)

U25¥2,500(1993年以降生まれの方限定/公演当日に生年を証明できるものを持参ください。) 主催 テレビマンユニオン

出演 今井信子、アントワン・タメスティ(以上ヴィオラ)、小栗まち絵(ヴァイオリン)、木田陽子(ピアノ) ほか

曲目 バルトーク:44の二重奏曲より シューベルト:アルペジオーネソナタ イ短調 D821より第1楽章 ほか

世界的ヴィオラ奏者の今井信子の提唱により1992年に誕生した音楽祭「ヴィオラスペース」。2009年にはアジア太平洋地域唯一のヴィオラ単独の国際コンクールとして「東京国際ヴィオラコンクール」を創設、以後3年毎に開催しています。本年は「入賞記念ガラ・コンサート」としてコンクールを勝ち抜いた入賞者が演奏を披露、審査委員を務める今井信子、アントワン・タメスティ、公式伴奏の木田陽子が共演、さらに小栗まち絵率いる相愛大学の若き奏者らが華を添えます。



©MarcoBorggreve ©Jose Lavezzi

#### 協賛公演 第9回 ICEPインド/日本 活動報告コンサート 五嶋みどり&Young Artists

4/2(月)  
発売

2018年6月12日(火) 19:00開演 指定席

一般前売・当日¥6,000(友の会価格¥5,400) ※友の会割引は1会員2枚まで。

主催 認定NPO法人  
ミュージック・シェアリング

出演 五嶋みどり、エリーナ・ブクシャ(以上ヴァイオリン)、ベンジャミン・ベック(ヴィオラ)、スタニスラス・キム(チェロ)

曲目 ヤナーチェク:弦楽四重奏曲 第1番 木短調「クロイツエルソナタ」JW VII/8

ハイドン:弦楽四重奏曲 第77番 長調「皇帝」作品76-3 メンデルスゾーン:弦楽四重奏曲 第2番 イ短調 作品13

ヴァイオリニスト五嶋みどりが理事長を務める認定NPO法人ミュージック・シェアリングでは、国内外の子どもたちに音楽の喜びを届ける様々なプログラムを実施しています。活動の一つ「インターナショナル・コミュニティー・エンゲージメント・プログラム(ICEP)」では、五嶋みどりが若手演奏家とカルテットを組み、2017年12月はインド、2018年6月は日本の子どもたちのもとを訪れ、本物の音楽を届けます。コンサートではカルテットによる弦楽四重奏をお楽しみいただきながら、インド・日本での活動についてご報告させていただきます。



#### 協賛公演 関西弦楽四重奏団 ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 全曲ツイクルス 第3回・第4回

発売中

<第3回>2018年7月2日(月) <第4回>2018年10月1日(月) 両日とも19:00開演 指定席

一般前売・当日¥3,500(友の会価格¥3,150) ※友の会割引は前売のみ 第3・4回連続券¥6,000(限定数、友の会割引なし)

主催 コジマ・コンサートマネジメント

出演 関西弦楽四重奏団/林 七奈、田村安祐美(以上ヴァイオリン)、小峰航一(ヴィオラ)上森祥平(チェロ)

曲目 <第3回>ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第5番 イ長調 作品18-5、弦楽四重奏曲 第11番 ハ短調「セリオーソ」作品95、

弦楽四重奏曲 第7番 ハ長調「ラズモフスキー第一番」作品59-1

<第4回>ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第6番 変ロ長調 作品18-6、弦楽四重奏曲 第3番 ハ長調 作品18-3、

弦楽四重奏曲 第9番 ハ長調「ラズモフスキー第三番」作品59-3

期待のベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲ツイクルス。第一線で活躍する俊英たちの強い情熱の発露が音楽界に新たな活力をもたらす! 2014年度 大阪文化祭賞奨励賞、2015年度 咲くやこの花賞 受賞!



#### 協賛公演 福井敬スペシャルリサイタル2018 IN 大阪

2018年7月8日(日) 14:00開演 指定席 一般前売・当日¥6,000(友の会価格¥5,500) ※友の会割引は1会員2枚まで。

主催 福井敬.net

出演 福井敬(テノール)、スペシャルゲスト:古楽アンサンブル「アントネッロ」/濱田芳通(コルネット、リコーダー)、

西山まりえ(チェンバロ、バロックハープ[予定])、石川かおり(ヴィオラ・ダ・ガンバ)、谷池重綾子(ピアノ)

曲目 カッチーニ:アマリッリ、美しいひと モンテウェルディ:音楽寓話劇「オルフェオ」より“天上の薔薇” 山田耕作:六騎

さだまさし:秋桜 ヴェルディ:歌劇「アイーダ」より“清きアイーダ” ほか

ロミオとジュリエットのよなめくるめく恋の世界、17世紀イタリア宮廷から古(INISHIE)の歌を古楽アンサンブル アントネッロと共に。そして、今の縁(ENISHI)をつなぐ日本のかから、さだまさしの「秋桜」など。最後は華やかなオペラの世界「アイーダ」の名曲まで。福井敬の歌で忘れない一日を。歌で痺れる感動を。大阪で年に1度、この価格でこれだけの内容はサ・フェニックスホールの福井敬スペシャルリサイタルだけ。





# 音楽アドバイザー プロデュース公演 2018年度「いちおし」を聴く

伊東信宏氏(大阪大学教授=音楽学)



今井信子氏(ヴァイオラ奏者)

2018年7月29日(日) 発売中

伊東信宏 企画・構成  
レクチャーコンサート  
ピアノはいつピアノになったか?補遺2  
「クララ・シューマンとピアノ」  
出演:玉川裕子(講師/桐朋学園大学准教授)、  
宮崎貴子(ピアノ)

このシリーズで、今回は初めて女性の音楽家に焦点をあてます。クララ・シューマンです。クララは、ロベルト・シューマンの妻でもありましたが、同時に19世紀を通じて、リストやショパンに並ぶ最も重要なピアニストであり、そして作曲家でした。ブラームスとの親交もよく知られていますが、長く第一線で活動したことによって、19世紀音楽史の結節点のような働きをした人物でもありました。

今回の公演では、クララについて今一番信頼できる語り手である玉川裕子さんが、彼女の様々な側面について光をあててくれます。そしてピアニスト宮崎貴子さんが、19世紀半ばに作られた、とても魅力的なピアノを演奏します。

2019年1月25日(金) 発売中

今井信子 presents  
原ハーゼルシュタイナー麻理子  
ヴァイオラリサイタル  
～シューマン&シューベルト名曲集～  
共演:島田彩乃(ピアノ)

原さんとは彼女がまだ桐朋の学生だった頃に知り合いました。右も左も分からないまま私についてベトナムやイタリアに来るなど、当時から希望と勇気に溢れ、物怖じしない、そんな性格に惚れました。その後ジュネーヴ高等音楽院の私のクラスで学び、音楽院史上初めてヴァイオラで最優秀の成績を修めるという快挙も成し遂げました。彼女の魅力はその自由な音楽性、そして求めるものがはつきりしていて、自分の音楽ができるところです。また彼女は誰とでもコミュニケーションを取れる天性の才覚があり、室内楽も得意です。知り合った演奏家と自然に音楽が生まれ、新しい活動を始めるなど、柔軟性と自発性に溢れる原さん。これからも末長く、益々活躍してほしいと願っています。

2019年3月2日(土) 9月発売予定

今井信子 presents  
フォーク・ソングス  
～ハンガリアン・スケッチ～  
出演:今井信子(ヴァイオラ)、ミハーリ・シボス(ヴァイオリン)、  
マールタ・グヤーシュ(ピアノ)

私は音楽に内在する「歌」に強く惹かれます。そしてその「歌」の原泉は民謡など民俗音楽にあると思います。ハンガリーの民俗音楽に造詣の深いミハーリ・シボスさんはバトルークを研究する過程で知り合い、彼の御蔭で私はバトルークの解釈が大きく変わりました。彼はまるで語るようにヴァイオリンを弾き、先祖から受け継いだ様々な「歌」が自然に溢れてくるような人です。マールタ・グヤーシュさんはまさに音楽のために生きているような人。音楽への奉仕という精神すら通り超えて、天命という言葉が相応しい人です。同じくハンガリー出身である彼女のなかにも豊かな音楽が流れているを感じます。そのような二人といつか一緒に音楽をやりたいと思っていました。シボスさんとグヤーシュさんは実は今回が初共演。それが大阪で実現するのはまるで夢のような話で、今からとても楽しみにしています。

## 夢の公演、募集中。大阪・梅田 フェニックス・エヴォリューション・シリーズ

**2019年5・8・11月／2020年2月 ホール無料提供** あなたの公演プランを舞台で実現してみませんか?

当ホールが公演企画を公募し、審査で選ばれた企画者にホールや付帯施設(基本費)を無料で提供します。併せてホールスタッフが公演開催のお手伝いもする公演共催事業です。企画者には公演開催のための様々な仕事に取り組んでいただき、ホールは共催の立場で支援を致します。芸術性やアイデアに恵まれながらも、発表の機会をなかなか得られずにいる国内外のアーティストの方々からの、ユニークな企画をお待ちしています。

●ホール提供日

**2019年5月18日(土)、8月7日(水)、11月13日(水)／2020年2月15日(土)**

プロ・アマチュア・ジャンル・年齢 問いません。学生の方や、海外在住の方も歓迎いたします。

- ◇ 企画内容が明確で、高い音楽性を備えている ◇ 室内楽ホールに適し、かつユニークである
- ◇ この公演を機会に発展が期待される

●選考アドバイザー

当ホールが委嘱する音楽評論家・新聞記者・研究者の方々(5名)

●特典

公演後、当ホールを利用される場合には、ホール協賛公演としてホール使用料金の特別優遇制度が適用されます。

●応募方法

- ①応募用紙 ②音資料(CD) ③過去の公演パンフレットなどの資料
- ④映像資料(DVD/映像・画像を使用する公演のみ)を揃えて、郵送または直接事務局までご提出ください。

●応募締切

**2018年6月15日(金)18:00 必着**

●審査結果

2018年9月初旬頃、郵送で通知します。

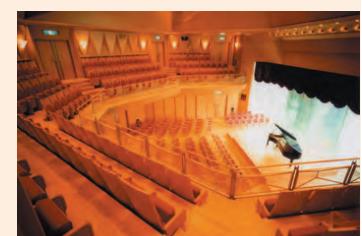
●募集要項請求・応募先

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

「フェニックス・エヴォリューション・シリーズ企画募集」事務局

TEL 06-6363-0211 FAX 06-6363-1124 E-MAIL concert@phoenixhall.jp

HP <http://phoenixhall.jp/> ※詳細はホールホームページをご確認ください。



## アリシア・デ・ラローチャの想い出 — 濱田滋郎



Keizo Matsui

年号が平成に変わった頃からだから、およそ30年近く、私は『レコード芸術』誌の新譜月評欄「器楽部門」のレギュラー執筆者をつとめさせて頂いている。従って、協奏曲や室内楽は別だが、ピアノ独奏あるいは二重奏(連弾、2台ピアノ)のアルバムなら、日本で発売された盤を、およそ全部聴いてきた。ピアノの音というものにももう馴れっこになってしまって、余程のことがなければ、「音」そのものに感銘を受けたりはしない、と言えようか。が、そうしたすべての体験を超えて、静かに思い返すとき、私の胸中に、記憶の中に、ありありと蘇ってくる、あまりにも美しい「ピアノの音」があるのだ。「ピアノの音とは、こんなにまで美しいものなのか」と、天啓を受けたように、そのとき私は驚いたのである。

この一文を書いているのは2017年12月も末近く。ともかくまだ2017年なので、それはちょうど50年、半世紀前のことになる。つまり1967年(昭和42)のこと。当時はまだ、音楽ファンでも好事家でなければその名を知らなかつたであろうスペインのピアニスト、当時43歳で初来日を果たしたアリシア・デ・ラローチャが、落成したばかりだった東京文化会館(上野)で開いたリサイタル。小ホールなのに客席は気の毒なほどまばらだったと憶えている。小柄なピアニストは登場すると、べつだん愛想もなくつかつかと歩んでピアノの前にすわり、最初の1曲、フランソワ・クープランの「葦」を無造作に弾きだした。まさにその瞬間、先に書いたような天啓に打たれて、私はその美しさを形容する言葉もなく、我を忘れたのである。

その日のプログラムは、前半をクープランから始めてモツアルト、ベートーヴェン。そして後半は、彼女が得意とし、その価値を世に知らせることに使命感を抱いていた、アルベニス、グラナドスなどスペインの音楽であった。その後、

21世紀の初め頃まで30数年間に20回近くも来日公演を持ったラローチャは、いつもそのように、プログラムの半ばをスペインのピアノ曲に充てた。

バッハ、モツアルト、ベートーヴェン、シューマン、ショパン、ラヴェルなど一般的なレパートリーに関しては、当初のうち「スペイン音楽のスペシャリストだ」という偏見から正に評価されぬ氣味もあったが、やがて彼女がアメリカの音楽ジャーナリストたちから「(世界の)ピアノの女王」という称号を贈られた1972年頃以降は、文字通り「何を手がけても素晴らしい」ピアニストであることが、音楽ファンの認識の中で、しだいに定着していった。ラローチャは2009年9月、86歳で他界したが、スペイン音楽、他の一般的レパートリーの別を問わず、残したレコーディング(LPからCDへ)は、ほとんどすべて美しく価値高いと言える。

私は幸いなことに、来日の度ごと、親しくお会いして、さまざまなお話を伺うことができた。その間、音楽について、演奏芸術について、幾多の「真理」を私はこの人から教わった。お人柄は毅然とした面をお持ちのかたわら、あたたかく、優しく、人間味に富んでいらした。気が早いところもあり、シャブシャブをご一緒した時は、こちらが食べ方を教える前に、いきなり肉を生のままほおばられたのにはびっくりした。「あら、いけないの? ハモン・セラーノ(スペインの生ハム)みたいなものじゃないの」と平気で言われたが…。

世界の名ピアニストたちからも、ラローチャさんは敬愛されていた。日本での「さよならコンサート」の舞台に、ちょうど来日中だったクリスティアン・ツィメルマンが花束を抱えて登場したように。音楽家として、人間として、アリシア・デ・ラローチャの想い出は、私にとって、まさしく掛け替えもない宝である。

濱田滋郎(はまだ・じろう)／音楽評論家、スペイン文化研究家

音楽評論家として幅広く活動するが、専門はスペインおよび中南米音楽の研究。1935年東京生まれ、60年頃より執筆活動に入る。78年より東京藝術大学、桐朋学園大学ほかで講師をつとめる。NHK-FM放送クラシック音楽・民族音楽の番組にレギュラー出演。主要著書に「フラメンコの歴史」「エル・フルクローレ」(晶文社)、「スペイン音楽のたのしみ」(音楽之友社)、「濱田滋郎の本」(現代ギター社)ほか著書・訳書多数。現在、日本フラメンコ協会会长、スペイン音楽こだまの会主宰(「清里スペイン音楽祭」をこれまで26回にわたり主催)。



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損害保険ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損害フェニックスタワー5F TEL 06-6363-0211  
Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2018年3月  
発 行 あいおいニッセイ同和損害  
ザ・フェニックスホール  
編 集 諸藤 修一  
デザイン 松井桂三有限会社

